

# 里山の風だより・高知版 vol. 6

里山の風景をつくる会 イベント情報 2016. 10

里山の風景をつくる会・高知では、地元高知の未来を考え 人と環境に優しく心身ともに健康に暮らせる家づくりを目指します。  
里山の風だより・高知版では、完成した住宅の紹介や、住宅見学会や住まい方セミナーなどのイベントをご案内します。

## 熊本地震その後

エニシ建築設計事務所 所長 江西 章

8月31日から9月3日にかけて熊本に行ってきました。

熊本地震から約5ヵ月、町はどうなっているんだろう？復興に向けて動き出しているんだろうか？余震は大丈夫だろうか？疑問や不安にかられながら、片道約700kmを高知から運転していきました。

熊本市内は熊本城周辺のホテル、雑居ビルの一部に被害が見受けられる程度でしたが、熊本城は、櫓や瓦、石垣の崩壊等無残な姿でありました。

市内から車で20分程 益城町に入るまでは屋根瓦の被害が見受けられる程度でしたが、県道36号線から235号線に入り益城町役場に近づくと風景は一変しました。報道等で予備知識がありましたが、その場に立ち、実際の現場を見ると、言葉がでませんでした。

車を秋津川沿いの町民グラウンドに置き宮園、木山地区を歩きました。跡形も無く潰れている家、2階建ての1階が潰れている家、さほど被害の見受けられない家、大体は築年数の古い家が壊れていましたが、2000年以降に建てられたと見られる住宅の2階建ての1階部分が潰れていた家がありました。間取りや、耐力壁の



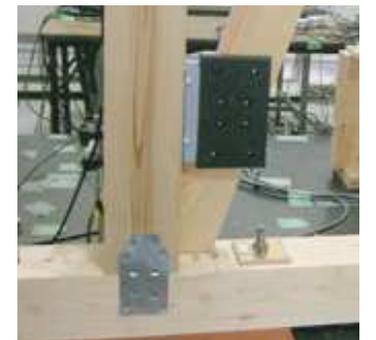
一階が倒壊した比較的新しい住宅（益城町）

配置など定かでないのに、なんとも言えないのですが、通し柱が折れているようでした。石垣等の崩落もあちこちで見受けられました。崩壊して道路を塞いで通行止めになっている箇所もあり、避難の際に障害になります。

普段からこうした場所を把握しておく必要があると思いました。まだまだ復興には時間がかかりそうでした。

ところで 前回のお便りで 制震について書きましたが 熊本へ行く前に第一工業大学の古田教授から、8月8日に神戸大学工学部において制震金物の公開実験

があるとのお誘いを頂いたので見に行ってきました。この制震金物（DIT制震金物）は従来の物と違って、直接筋交いに取り付けられる物です。高減水ゴムと金物の組み合わせにより出来ています。通常は金物で、大きな力が加わったら高減水ゴムで力を吸収します。実験では熊本クラスの揺れでも、筋交いは無傷でした。繰り返しの揺れでも大丈夫で、大きな耐震効果が得られると思いました。金額も従来の制震金物は1軒40~60万円くらい掛かっていましたが、この金物は10万円以下で納まるよう目指しているようです。



DIT制震金物（黒い四角の部分）

この手法は近い内、木造軸組工法のスタンダードになるのではと思いました。現在使用されている耐震壁の種類は、筋交い、構造合板や、ボード状の製品によるもの等、色々な種類のものが使われています。それぞれに一長一短があります。耐震性は耐震壁の種類だけではなく、壁の量や配置のバランスによって大きく左右されます。今回の熊本地震でも新耐震基準でも壊れた家はほんの少しの設計や施工のミスがあった為とも聞いています。良い設計と良い施工、これが地震から家を守るためには必要です。

専門家の助言を基に家造りをされる事が大事だと思います。

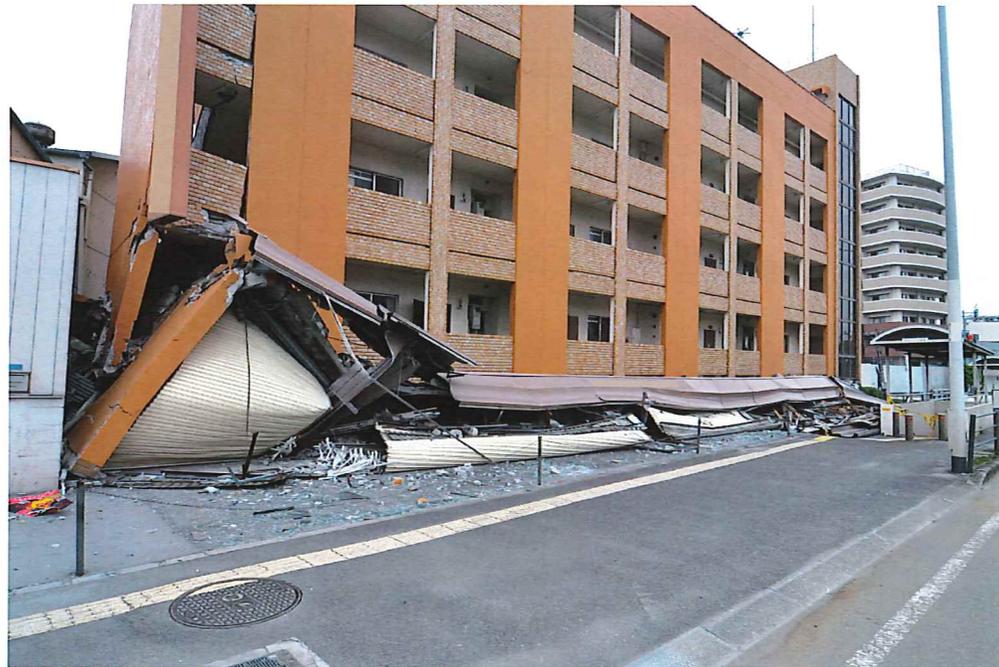
熊本市民の方にお聞きすると、「熊本城と水前寺公園は熊本の宝、地震後のお城の姿と水前寺公園の水が無くなった時は大変ショックで涙が出ました。」

市民、県民にとって心のよりどころの大切な財産、また威風堂々とした熊本城が早く見られますように。熊本の日も早い復興を祈るばかりです。

## 熊本地震の被災地を歩いて 2

### — 南海プレート巨大地震への備えを急ごう —

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事  
建築家 野口 政司



1階の店舗部分が崩壊したコンクリート造のマンション（熊本市内）

4月14日～16日に発生した熊本地震では、観測史上初めてとなる震度7の揺れが2回起こりました。それにより木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の構造に区別なく、多くの建物が被災し倒壊しました。

5月に被災地の熊本県を歩きました。大分県湯布院側から熊本県に入り、小国町、南阿蘇村、西原村、益城町、熊本市と巡りました。現地の方々は、私が思っていたよりたくましく、けっして災害に負けてはいませんでした。同じ九州出身の友人の話では、熊本県人は『肥後もっこす』とあって、『土佐いごっそう』、『津軽じょっぱり』と並んで『日本三大頑固もん』と呼ばれており、明るく陽気で、人情があり、負けん気の強いお国柄だそうです。そのエネルギーで復興に向けて力強く立ち上がっていくことでしょう。少しでも復興支援のために、とあって名物「熊本ラーメン こむらさき」を買って帰りました。その強烈なパンチ力のあるラーメンの味を、私は忘れることができません。

さて、南海プレート巨大地震に向けての備えのことです。

東京都では、小池ゆり子さんが女性初の都知事に選ばれました。公私混同問題で辞任した舛添要一前知事は、海外出張と美術館巡りのほかは何もしないで湯河原の別荘で風呂につかっていただけのように言われていますが、実は彼の唯一といってもいい仕事があります。それは2015年9月に『東京防災』という本をつくり、都民に無償で配ったことでした。

30年以内に70%の確率で発生すると予測される首都直下地震に備えて、どのような準備をすることが必要かを書いた本です。小冊子ですが、300ページに及ぶ中身の濃いものです。

30年以内に70%の確率という、南海巨大プレート地震とほぼ同じ予測値です。私たち四国徳島の県民には、それなりの覚悟と備えができていられるでしょうか。

『東京防災』に書かれていることで、私たちの参考になるものを以下に抜き出してみました。

#### 『今やろう』—10の防災アクション

- 日常備蓄 ○非常持ち出し袋
- 大切なものをまとめる
- 部屋の安全を確認 ○家具の転倒防止
- 耐震化のチェック ○避難先の確認
- 家族会議 ○災害情報サービスに登録
- 防火防災訓練への参加

#### 『今やろう』—4つの備え

- 物の備え
- 室内の備え
- 室外の備え
- コミュニケーションという備え

#### 建築的備えをまとめてみました。

- 耐震化チェック—1981年以前の旧耐震の建物は要注意
- 防火対策—住宅用消火器、火災警報器、感震ブレーカーの設置
- 耐震シェルターの設置—20万円程度からという低予算で住みながら工事ができる

以上のほか『東京防災』には、簡易おむつやランタン、食器、簡易コンロの作り方からロープの結び方まで、実際に役立つアイテムが満載です。定価は130円+税+送料です。希望される方は野口建築事務所(088-655-1616)まで。

